

|      |               |
|------|---------------|
| 研究区分 | 教員特別研究推進 地域振興 |
|------|---------------|

|       |   |       |                              |    |        |
|-------|---|-------|------------------------------|----|--------|
| 研究テーマ | COVID-19 (ｺｯ) の感染拡大による重症心身障がい児の看護実践の現状と課題 |       |                              |    |        |
| 研究組織  | 代表者                                       | 所属・職名 | 看護学部・助教                      | 氏名 | 池田 麻左子 |
|       | 研究分担者                                     | 所属・職名 | 心身障害児総合医療療育センター<br>小児看護専門看護師 | 氏名 | 仁宮 真紀  |
|       |   | 所属・職名 | 聖隷おおぞら療育センター<br>小児看護専門看護師    | 氏名 | 真木 希   |
|       |   | 所属・職名 |                              | 氏名 |        |
|       | 発表者                                       | 所属・職名 | 看護学部・助教                      | 氏名 | 池田 麻左子 |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 講演題目            | COVID-19 (ｺｯ) の感染拡大による重症心身障がい児の看護実践の現状と課題  |
| 研究の目的、成果及び今後の展望 | <p>【目的】本研究では、COVID-19 (ｺｯ) の感染禍における重症児施設 (以後、施設) での重症児 (以後、重症児) 看護の現状を明らかにし、看護実践における課題への示唆を得ることを目的とした。</p> <p>【成果及び今後の展望】COVID-19 (ｺｯ) の感染禍であったため、対面インタビューによるデータ収集は困難であった。小児看護専門看護師による非公式での情報共有の場での報告内容や記録、施設に入所している重症児の看護実践を行う小児看護専門看護師3名との情報共有から得られた情報などからデータ収集し、施設におけるCOVID-19 (ｺｯ) の感染への影響や支援の現状、課題などについて情報を整理した。</p> <p>結果として、①施設に入所している重症児の日常生活に及ぼした影響：日常的に行われていたきょうだいの含めた家族の面会の制限、集団遊びや活動など発達を促すための利用者同士の交流の減少、特別支援学校への登校、訪問授業など教育活動の制限など、②対応が求められた看護実践：限られた環境下での隔離管理や人流の工夫による感染予防対策、認知発達の不十分さを考慮した重症児に必要な感染予防対策の工夫、動ける重症児の外出や遊び、移動範囲の制限によるストレス対応、登校や病院受診など施設外へ出る場合の感染予防対策、終末期にある利用者の家族面会の緩和、面会制限されている家族への利用者情報の提供方法の工夫など、③看護師の心身への影響：COVID-19 (ｺｯ) の感染拡大の速さや感染力に見合ったタイムリーな対策を講じることへの焦りと疲弊的な思い、重症児が感染することによる生命の危機への不安、感染を職場に持ち込むことを危惧する思い、自身が感染者や濃厚接触者になった場合の職場に及ぼす影響への不安、面会制限の基準を検討する際に生じるジレンマによる苦痛などがあった。</p> <p>今回の結果から、施設の看護師は、感染への予備力が乏しい重症児の感染リスクに不安や危機感を感じつつも、COVID-19 (ｺｯ) の感染拡大の速さや感染力に見合った対策に、迅速さと臨機応変さを両立させるための看護実践が急務とされた現状が明らかになった。そのためには、施設の限られた物理的環境での感染対策や面会制限、自助的な感染対策を求めることに難しさがある重症児の背景にも感染予防対策を講じる看護実践の困難さが存在していることが推測できた。これらは、看護師自身が感染することへ不安や恐怖と共に、対策を講じることへの倫理的ジレンマや苦痛の増強に繋がると考える。</p> <p>重症児の感染リスクを最優先した感染予防対策は重要である。しかしながら、重症児の日常生活の質を維持するためには、看護実践を行う看護師の心身のケアや支援も重要な課題であると示唆された。今後、示唆されたことへの具体的な方法を検討する機会を設けていきたい。</p> |